

編集後記

私が学会雑誌編集員になったのは2008年頃と思われるが、当時学会理事長であった中澤 誠先生から光栄にも御推薦いただいた。「お前はもっと頑張れ」と、発破をかけていただいたと表現するのが妥当だろう。当時の編集委員長は中西敏雄先生で、編集工程においても毎回見事な辣腕を振るわれていた。委員会後の懇親会では、中西先生の骨太の人生話が懐かしく思い出される。編集事務局も当時はメディカルトリビューンで、今では学会事務局からも撤退し、影も形も存在しない。

早いものであれから8年になるが、この間に埼玉医科大学国際医療センターの住友直方先生と私以外は、編集委員長や、編集委員の先生方は皆さん変わられた。そして学会雑誌の中身は大きく変わった。最近の投稿数増加には、種々のアイデア、試みや査読方法の変更が大いに功を奏している。電子媒体の導入も資金節約の大きな転換となった。ニュースレターも印刷がきれいで読みやすい。「専門医向け・若手の総説シリーズ」は、いずれも会員の先生方から好評のようである。「Images in Pediatric and Congenital Heart Disease」はまさに百聞は一見に如かずだし、新しい企画の「ケースチャレンジ」や「小児重症心不全治療の現状と将来シリーズ」なども乞うご期待である。

しかし今後の最大のチャレンジは「英文誌創刊」である。この話は、会員の皆さんからのアンケート調査結果に始まり、発刊は理事会で決定し、評議委員会および総会で承認され、そして来年度予算も確保され待ったなしの状況である。来年度の学術集會に発刊が間に合えば最高である。「総論賛成、各論反対」で、英文投稿は海外ジャーナルのみなどと言わず、会員の皆さんが一丸となって発刊まで漕ぎつけよう。

(土井庄三郎)